

不登校の解消K君の場合

平成21年9月26日

彼は、現在高校1年生。楽しく学校生活を送っております。彼のお母さんから先日こんなメールを頂きました。ただプライバシーのこともあり、一部修正させて頂きます。

「こんにちは山下さん、インフルエンザも流行りだしていますが、体調はいかがですか。新聞でセブ島募集広告をみました。一年前のKのことが思い出されました。あの3年間に比べると、今のKは180度の代わりようです。とにかくよく喋り、笑います。これはK自身も認めていることです。一学期を終え、私がびっくりしたこと。先輩に殴られ、理由に納得できないのか、先生の詳細で殴り返した。クラスの仲間にあまりにも執拗にちょっかいされ、これ以上やると本気で殴るぞと言ったそうです。自分で気になる白髪を担任の許可をえて黒く染めました。こんなに自分を出す事ができたら、中学でもと思ったりもしますが、全ては寮生活での自立が1番でしょうね。勉強は、英語はやはりクラスで真ん中で大変らしいですが、担任は、2年になるとき上のクラスになり、難しい勉強にチャレンジし、大学を目指せとはっぱをかけられ、夏休み終了1週間前に、帰り特別授業を受けました。大学に行く行かないはさておき、勉強に意欲が出たことはいいことです。今年の12月に先生の車で静岡と藤枝で勉強した頃より、自分で勉強したい気持ちになっているからです。先日藤枝での悲しい事件、今日の新聞でいじめた子供達に変化はないと記事になってました。このような記事がでると、Kもそういう気持ちになりかけていたことがあっただけに心が痛みます。本当にこんなばかげた「いじめ」という言葉がなくなってしまうといいのに。ゲームの世界のように死んでしまっても、リセットできないことを多くの子供達に理解してもらいたい気持ちです。」

彼とは昨年4月17日に、某市内のNPO静岡県教育フォーラムの正会員の教室で初めてお会いしました。祖父母とご両親に、3歳下の弟の6人家族の長男。聞くに、中学校1年生になったばかりの4月下旬、7人の友達から筆箱を隠されたり、無視されたり、仲間はずれのいじめを受け、不登校に。男子10人、女子11人の僅かに21人のクラスゆえ、7人からそのようないじめを受けると、構わないでいることもできず、辛かったと言う。欠席が嵩むため、それでも1年生の後半は、夕方生徒が帰ってから学校に行くことにしたが、2年生からは午前中に1,2時間の授業を受けて、帰宅したとのこと。結局、2年生は40数日の欠席。いよいよ3年になってもそのような状態が続いたため、当フォーラム主催の「不登校・引きこもり無料相談会」の新聞記事を見て、来られたそうです。

早速心理テストを採ったのが、下の青色のグラフです。中部労災病院心療内科の芦原睦先生のお言葉で説明しますと、CP＝頑固親父性5、NP＝お節介おばさん性52、A＝コンピューター人間性60、FC＝やんちゃ性23、AC＝いい子ぶりっ子性100という結果です。芦原先生流の分析ですと、「あなた色にそまります」タイプで、「どこに行こうか?」「どこでもいいよ」「何食べる?」「同じ物を」「どうしようか」「みんながいいっていうなら私は別に・・・」こんな会話をする子ですね。「弟みたいで可愛い奴」と、ついついかまいたくなる人。しかし、その傾向が続くと「お前は自分の意志がないのか」、「たまには自分から何か言えよ」と、周囲の人を怒らせることにもなりかねません。私は彼に、「そこに君がいじめを受けやすい素因である」と指摘し、彼が学校に行けない彼自身の中の素因は、CPの低さとAC、Aの高さにあると指摘しました。即ち、自分がどう思われているか異常に気にしてあれこれと頭で考え過ぎており、かといって、それがために今こうしなければならぬ(学校に行かなければならぬ)という意識を弱くしていることだと説明させて頂きました。勿論、実際にはもっと詳しく話しました。

それを聞いた彼は、「今日初めてお会いし、この心理テストだけでどうしてそこまで分かるのですか?」と言われましたが、「そう分からなければ、これまで10数年で140人近くの不登校・引きこもりの解消は行ってきていませんよ」と答えました。でも、彼はもう中3という年齢を考え、何とか学校に行きたいと言われましたが、彼の家からは出席認定を取りながら私の所に通うことはできません。そこで、私は彼に1つの提案をしました。それは、まずはCPの成長を促すためのあるプログラムです。

5月に入ると早速その効果が現れ始め、「先生、この連休の後に修学旅行があるんですが、先生は行った方がいいと思いますか?」というメールが来ました。私はあくまでも自分で決めるように返事しました。5月6日、1泊の下田の交流会宿から帰ってきましたら、彼から「今日学校に行って来ました。明日から修学旅行に行ってきます。K。」と言うメールが来ていました。お母さんから、息子の突然の変化に驚いた旨のメールが来ておりました。その4日後、彼から「修学旅行は本当に楽しかったです。いじめた子達もいい友達になっていました。先生、これからどうすればいいのですか?」というメールが来ました。まだまだ自主性が育っていない。私は彼に逆にどうすればいいと思うかを尋ねました。すると、彼は「今学校に行っても授業が分からないから、すぐにでも勉強を教えてもらいた。」とのメールが来ました。私は、彼のCPの成長を実感しました。前述の通り、彼は当フォーラムの事務局教室からは遠方に住んでいるため、インターネットで英数国の授業を受け、演習問題を解いて理解していくシステムを紹介して、学習を始めさせました。

時々私とインターネットのWeb会議システムで面談もしました。そうなる、次は彼のFCの成長を促すため、私は彼に夏のフィリピン・セブ島での交流合宿参加を勧めました。最初は初めての海外旅行のため興味があり、参加を快諾し、事前の実施説明会やカヌー体験の参加者交流会に参加したりしていたのですが、出発1ヶ月前になった時、突然の参加を渋り始めたのです。お母さんが参加を促しても、頑なに拒否し始めました。そこで、私は彼と賭けに出ました。しっかりと覚えております。

交流合宿出発のちょうど10日前の夕方のことです。事前に旅行会社の担当者に事情を説明し、航空チケットを発券して頂き、私が運営する予備校にお母さんと二人で来て頂きました。「この4月、私は君から君が学校に行くという希望を実現する仕事を受け、君とのメールのやりとりから先ずは君が修学旅行に行くことを実現させた。君は信じられなかったかも知れないが、前から私が言っている通り、人は本当にそう望めばこうして変わることができる。今回の交流合宿は、同世代の仲間達とコミュニケーションを取る練習にもなり、君が**中学校に通ってみんなと一緒に授業を受けられるようになるためには絶好の機会だと思うし、君を修学旅行に行かせることができたから、今度も君を学校に行かせる自信がある。だから、私は今日が出発の10日前で航空チケット発券の最終日になってしまったので、こうして君の分のチケットを私のお金で発券して貰った。これを生かすも無駄にするのも君次第。勿論、無駄にしても、これは私が独断でしたことだから、私に悪いなど考える必要はない。どうするか返事が欲しい。」と、私は彼に決断を迫りました。彼は下を向き、3人の間に暫く沈黙が続きました。心配になったお母さんはたまたま「K、お母さんも先生が仰る通り、Kが変わる本当にいい機会だと思うよ。だから、合宿に参加して。」と言う。私は黙って彼の返事を待ちました。1,2分経っただろうか、私には随分長く感じたが、彼が「先生、本当にこの合宿で僕は変わることができますか？」と言い終わるや否や、私はすぐさま「できる！」と答えました。お気づきの通り、彼は”確認”のためにそう質問したので、私の答えはYESしかなかったのです。その後、勿論彼は「分かりました。僕は自分を変えるために、合宿に加します！」と答え、お母さんの顔にも笑みが浮かびました。これを彼が読んだら怒るかも知れませんが、もう今は高校生として学校に通っているんだから、許してくれるだろうと思います。私もこんな賭けはこれまで何度も経験しました。もうお分りの通り、今回の賭けは実は賭けではなく、パフォーマンスでした。彼のために”買った”チケットに、私はお金を支払ってなかったのです。旅行会社の担当者が私の意図を聞き、協力してくれたのです。担当者も、結果的に彼が学校に行けるお手伝いができたと喜んでくれました。

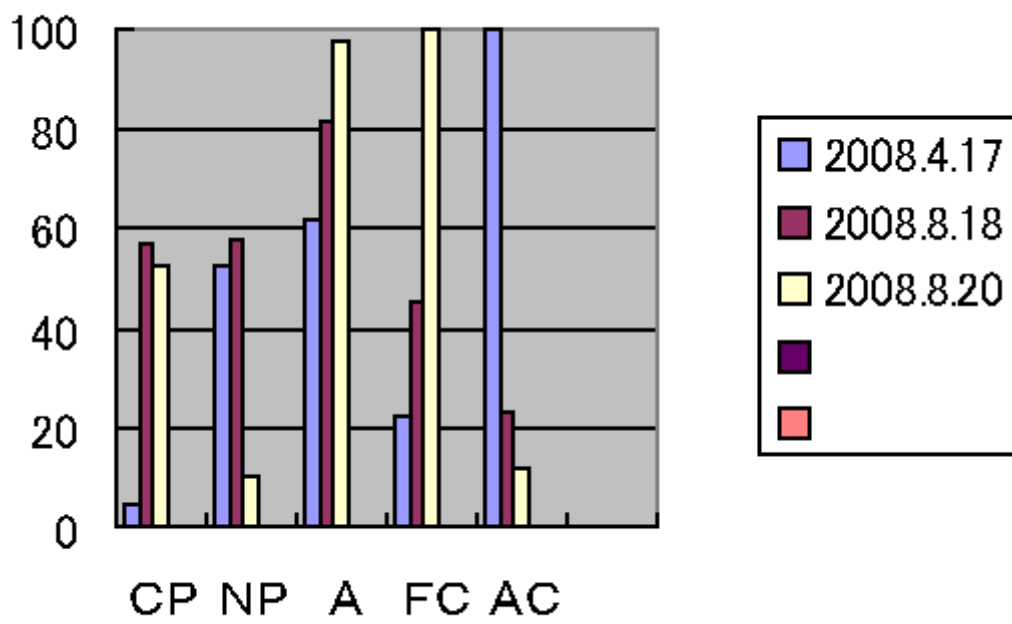
話はこれで終わりません。今回の合宿はこの30数年のこうした活動の中で初

めて体験する、まあ、大変な交流合宿でした。と言いますのは、フィリピン・セブ島での交流合宿出発の8月17日、Tサブリーダーがパスポートを忘れるハプニングがあったものの、マイクロバスで朝6時40分に出発。焼津ICから東名に乗り、途中鮎沢PEで休憩。首都高も順調で、渋滞どころか一度も止まることなく、10時過ぎ、酒々井SEで時間調整のため、30分も休憩。11時には成田空港着。いよいよ12時、航空チケット発券。ところが、フィリピンの場合、15歳未満の未成年者が親権者の付き添いなしに旅行する場合、同意宣誓供述書の証明を親権者が事前にしなくてはならず、それをしていないことが判明したのです。実は、今回は経費節減のため、現地の旅行会社を通さず、協力頂いてきたALTA（寄宿舎のある語学学校）も、これまで生徒の殆どが15歳以上の子達で、15歳未満の未成年者は必ず親権者と同伴だったため、ALTAも旅行会社もその法律（数年前人身売買防止のため制定）に気づかず。そのため、7名の15歳未満の参加者の航空チケットが発券できず、ALTAを紹介頂いた元県議やALTAのスタッフと連絡を取りながら、今回初めてご同行願った添乗員さんと対応を協議。合宿の趣旨から全員参加の原則を守り、出発30分前にやむなくPR-433便搭乗をキャンセル。翌18日のセブ行きの航空チケットが予約できないため、18日は一日ディズニーランドで楽しむことにし、旅行会社が手配してくれた成田レストハウスに宿泊しました。18日、添乗員さんは前日の気疲れかぐっすり朝寝坊、朝食にも遅れる始末。午前中、K君を含めた参加者とリーダー達は、ディズニーランドで楽しんでいる中、フィリピン大使館と連絡を取って頂いていた元県議（今回の合宿先の紹介者）より、ホテルで待機していた添乗員さんに連絡が入り、私と共にフィリピン大使館に副領事を訪ねよとのことで、私と添乗員さんと共にフィリピン大使館に出向き、副領事と対応を協議。副領事は自身の手で手続き処理を行い、何とか間に合わせる旨の提案を頂きましたが、15歳未満の参加者達の書類が物理的に間に合わないことに加えて、航空チケット予約が翌々日の20日でないといけないとの連絡を受け、誠に残念ながらセブ行きを断念しました。旅行会社は責任を思い、グアム、ブーケートを提案してくれるも、私は合宿の趣旨を考え、島内3カ所が2003年に世界遺産にも登録され、様々な体験もできる大韓民国・済州島行きを懇願しました。15時、先に航空チケットとホテルが予約できたグアム行きをキャンセル。15時半、宿泊先が確保できないまま済州島行の航空チケットを確保。16時半、待ちに待った済州島のホテル確保の連絡が添乗員さんの元に入り、添乗員さんは安堵の思いを噛みしめる間もと済州島3泊4日の準備をして頂く。19時過ぎ、ディズニーランドを満喫した参加者全員ホテルに戻り、夕食。参加者全員、心理テストを採りました。その時の彼のエゴグラムをご覧ください。見事にACとFCの逆転を果たし、CPも見事に成長しました。自分の気持ちを素直に出し、心から仲間達との交流を果たすことできるような

り、自分の今すべきことの意識もしっかりと芽生えてきました。K君のエゴグラムの変化に、私はこの合宿の成功を確信しました。と言うよりは、ホッとしたのが本音です。

19日、釜山経由で夜9時、済州空港到着。急遽お願いした現地旅行会社チェス・ツアーズの大変明るく元気なガイド、ユン・ジウォンさんの出迎えを受けました。このユンさんのガイドのお陰で更にK君のエゴグラムの変化を促し、K君にとっても3泊4日のホントに楽しいJE-JU交流合宿になりました。カムサムニダ〜。と言いますのは、翌20日は、大きな体の彼が大好きな海水浴を果たせ、参加者みんなと楽しく過ごし、その日のエゴグラムは下記の通り、FCとACが完全に逆になり、僅か4ヶ月前と正反対になりました。また、21日には、約20〜30万年前、寄生火山コムンホルムから噴出した溶岩が海岸線までの長い距離に達する過程で、外側の溶岩が固まり、中を溶岩が流れ、幅2〜25m、高さ2〜23m、長さ約8kmの巨大な洞窟を形成した世界遺産・万丈窟の一部、片道約1kmを歩き、自然美を堪能しました。更にその日、済州島の東端にある、海底火山が大噴火し、隆起してできた高さ約160mの城の形をしたもう一つの世界遺産・城山日出峰を、往復約1時間かけてその頂上に登ったのです。ユンさんの励ましを受けながら、不登校のためか運動不足ながら最大傾斜43度のこの山を息も絶え絶えながら最後に登り切り、参加者みんなが拍車喝采、その疲れも忘れるほどの頂上からの絶景に感激しました次第です。

この達成感は正に筆舌に尽くしがたく、彼をしてこうした交流合宿の大きな効果を知らしめました。合宿先の変更で1日増えた交流合宿から帰国した翌日、彼は1泊2日の私が紹介した0高校の体験入学を経験、その高校が大変気に入って、高校進学希望を強くし、8月28日からの新学期に、**中学校の授業復帰を果たしました。その28日の夕方、「学校って楽しいね。」と父親に話すK君の言葉に声を詰まらせたお母さんからお電話を頂きました。



2008. 4. 17 初回面談時 2008. 8. 18 交流合宿 3 日目 2008. 8. 20 交流合宿 5 日目